

植物と人々の博物館メールマガジン

第 124 号 2025 年 7 月 8 日発行

~~~~~



梅雨にクチナシやアジサイはよく似合います。今はヒメシャラやナツツバキ、ユリの仲間が美しいです。季節は早く進み、フヨウやハスが満開です。モロッコインゲンやバジルがサラダボールに加わります。

植物と人々の博物館は社会的共通文化財である植物標本、民具、文献資料や書籍を整理して森とむらの図書室を充実し、連携しているタイ・日本自然クラブの展示も再開しています。ご利用くださり、整理もご一緒に手伝っていただければありがたいです。できることなら、これらの資料は公共の場所を確保して、広く公開し、ご活用願いたいです。

## 1. 植物と人々の博物館

○開館・作業日：7月は未定日か28日に開館予定です。さく葉標本を選別し、民具、書籍の整理を行っています。公共の知的財産として活用していただけるように、ご協力いただけると嬉しいです。ご協力いただける方があれば曜日や日時は調整できます。また、資料など閲覧したい方はご連絡ください。

### 主な作業：

- ①書籍 8000 冊・農林業、雑穀、民族植物学、環境、人類学、教育などの資料・書籍の整理、インドの関連書籍も多い。
- ②日本、インド、タイなどの民具の整理
- ③展示の企画：タイの民具の展示、自然文化誌研究会（学大探検部）50 年記念記録
- ④インド亜大陸、中央アジア学術調査隊収集の植物腊葉標本整理、台紙に貼る作業など、
- ⑤その他

### ○報告

1) インドの共同研究者 A. シタラムさんが6月2日に、バンガロールのご自宅で、ご家族に見守られて逝去されました。編集子は家族的にお付き合いしていました。世界の雑穀研究を先導してこられた彼の庇護の下で、インド亜大陸を自由に調査できました。限りない友情に感謝します。日本、西原にもおいでになった際の写真です。

2) 50 周年記念企画の1つとして ZOOM 座談会をしました。30 余名ほどの参加者でした。その後、動画の視聴希望があります。

3) 6月30日に西川文庫や雑穀街道の資料整理をしました。

畑で、Aさんの隣のBさんと立ち話しました。大工の見習いをして、暮らしを立てたが、今は畑をしている。人がバカにして見えても、構わない。好きでやっていることだ。モロコシもソバも売れないから、畑の肥やしにしていると言う。畑は、陽当たりは良いが、石がたくさん出て、硬い。生きるに必須の業をもっているからである。それでも自然に対して謙虚だ。こういう人がいるから、山村を尊敬し、通っては彼等から経験を学んできたのです。不易、本質の生きる業はここにあるのです。流行を全否定しているのではなく、不易を忘れないでほしいと思うのです。これがELF環境学習過程の根底原理です。



○予定

- 1) タイ TJ クラブ 展示準備
- 2) 書籍、標本の整理。
- 3) 電子書籍：

自選集日英文要約版（第V巻“Essentials of Ethnobotany on Millets ~Their Origin and Dispersal around Indian Subcontinent”）では、穀物に関する新たな栽培起原と伝播仮説および未来への提案をします。同時に、自選集 III『日本雑穀のむら』の補足として、40年前の北海道調査における開拓農家やアイヌ民族の人々などとの対談テープの文章化を進めています。自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』や句集に順次新作を追加しています。

**民族植物学ノオト第18号**を公開しました。第19号は2025年末を原稿締め切りとします。どなたでも、ぜひご寄稿ください。

[http://www.ppmusee.org/\\_userdata/oto\\_No18.pdf](http://www.ppmusee.org/_userdata/oto_No18.pdf)

4) 公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>も国会図書館インターネット資料収集保存事業 (ndl.go.jp)で毎年1回7月20日頃に収録されています (すでに5回登録済)。すべての記事は無料で公開しています。国会図書館の文献録には博士論文や科学研究費報告書などまでが集成されており、ここに保存されている記事は記録として残りますので、とてもありがたいです。無料で皆さんに読んでいただけます。

5) 森とむらの図書室への寄贈など 現在所蔵する書籍 (8000冊) や文献を整理して、ご利用していただけるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実しています。国内外の調査時におけるフィールド・ノオト、スライド35mmなども、こちらに置きます。リスト作りや番号貼りなど、ご協力いただけるとうれしいです。インド関係、民族植物学、図鑑、世界の料理書、雑穀などの文献、森林政策 (財・森とむらの会の全資料) などに特色があります。

民族植物学関連の資料を先学からお預かりしてきた植物と人々の博物館を受け継いで、継承してほしいです。ヒトがこの人新世に暮らしていくのに、いずれ無くてはならない知識・知能を支える大切な生業の資料であることが世間にもわかります。木保文庫は秋から年内には大方配架します。古典から新刊まで、良書が多くあります。

<https://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html>

## 6) 雑穀栽培

簡単な栽培や加工、調理法などは下記にあります。不明なことがありましたら、メールください。

栽培法 [雑穀 ～とりあえずの栽培法 \(milletimplic.net\)](http://www.milletimplic.net/farmsklec8p.pdf)

[farmsklec8p.pdf \(milletimplic.net\)](http://www.milletimplic.net/farmsklec8p.pdf)

加工法 [雑穀類の加工方法 \(milletimplic.net\)](http://www.milletimplic.net/)

詳細な調査記録は『日本雑穀のむら』『雑穀の民族植物学～インド亜大陸の農山村から』を検索してお読みください。ダイジェスト版は『穀物の起原と伝播』です。

上岩でも小菅でも、高齢の雑穀栽培者がいます。自立した誇り高い人生の姿に敬意を持ちます。

## 7) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金をお願いしています。これまでにゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただきました。ありがとうございます。将来に向けて、植物と人々の博物館へのご寄附あるいは整理作業のご協力を、よろしくお願いします。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。標本、民具、書籍などを社会的共通文化財として公共の施設で保存・公開するために、費目指定でご寄附をいただけるとありがたいです。今のところ、上野原市西原のびりゅう館に森とむらの会文庫を一括貸し出しています。他に数名の方に、まとめて関係資料を貸し出しています。

これまでに、多くの方にご寄附を頂き、書架を購入できて、感謝しています。

郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

## 2. 自然文化誌研究会（学大探検部：東京学芸大学自然文化誌研究会冒険探検部）

### ○報告

1) 六義園の庭師になった柴田さんのお誘いで、和アジサイを見に行きました（写真）。

2) 創立 50 周年記念行事の ZOOM 座談会 6 月 21 日 10:30~17:10

30 余りほどの参加者で、議論がとても深まりました。座談会記録動画もあります。今までの活動成果の到達点をまとめています。視聴をご希望されるからには URL をお知らせします。

3) 自然文化誌研究会（東京学芸大学冒険探検部）は 2025 年に創立 50 周年を迎えました。今までの活動履歴を示す 50 周年記念関連資料集をまとめています。今後の更なる発展を期待します。

### ○予定

『50 年史』をまとめるほか、50 年間に関わった人々と思いを語り合う会（10 月 4 日～5 日）とか、タイとの交流展示など、企画が進んでいます。環境学習セミナー、公開講座、冒険学校や農学校、関係市民も皆さん、何万人もが場と時を共有した東京学芸大学彩色園で、1 泊 2 日を過ごします。学大環境教育研究センターの了承も得られています。

詳細はまだ未定ですが、おおよその仮案です。

日時：2025 年 10 月 4 日（土）～5 日（日）、1 泊 2 日、日帰り自由参加

話題：未定

場所：東京学芸大学彩色園など。仮承認を得ています。

内容：写真展、談話会、50年記念誌の発行などを検討中。

### 3. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NP04 団体と 3 個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

<https://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

生業としての学びを勧めたいです。加えて、各団体による環境＋観光＋教育産業が実現できることを期待します。

民族植物学講義資料をカリキュラムにして体系的に公開します。植物の種子、保存方法、栽培、加工、調理、民俗、生物多様性、文化多様性の保全、生業を学ぶ環境学習原論、人新世に暮らす中での希望を探す、などを参考教材（無料）として用意します。実技は各団体の講座を受けてください。

#### 小金井環境市民会議

4月5日、市長への要望書「優先整備道路の検証についての検証方法・検証結果についての市民への説明要望」を直接、市長にお渡ししました。現市長は都道建設中止を公約に当選しましたが、建設方向の文書を都に提出するようです。環境市民会議は小金井市環境条例に基づき、市長に意見を述べるができることになっています。

武蔵野公園は多くの公園、大学、古い多磨墓地など周辺と一体なって、連携した大きな緑地になっています。太古から富士山を眺望できる聖なる場所です。これを中断するような都道は作るべきではありません。

毎日、散歩に行っている場所ですので、次のサイトを作り、日々の彩をお伝えします。小金井環境市民会議のサイトにリンクしてもらいます。

<https://www.millettimplic.net/weedlife/musashinopark.html>

#### ○協力団体の案内

##### 1) 里山再生ボランティア入門講座

<https://satoyama-gakkou.org/field/参加者募集里山再生ボランティア入門講座>

##### 2) エコプラスからのお知らせ

- ・ヤップ島プログラム報告会（7月5日、東京・神田）
- ・棚田草刈りアート日本選手権大会 2025（7月20日、南魚沼市栃窪）
- ・田んぼのイロハ稲刈り編（9月20-21日、南魚沼市樺野沢）申込】

<https://forms.gle/RULZujXBvSXJHDAC7>

(オンライン中継も予定。申込者にリンクを送ります)

~~~~~

植物と人々の博物館 (山梨県小菅村) :

館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男 (東京、専任研究員、担当運営委員)、西村俊 (石川、担当理事)、井村礼恵 (東京、担当運営委員)、川上香 (長野)、渡辺隆一 (長野)、Sofia M. Penabaz-Wiley (千葉)、伊能まゆ (ベトナム)、大澤由実 (神奈川) ほか

公式 HP：自然文化誌研究会/植物と人々の博物館 <http://www.npo-inch.ppmusee.org/>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 kibi20kijin@yahoo.co.jp

民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>

[エコミュージアム日本村／ミュージアム研究会](#) (山梨県小菅村)：代表 亀井雄次 (山梨小菅村)

[自然文化誌研究会](#)：代表 中込卓男 (東京)、副代表 中込貴芳 (東京)、小川泰彦 (埼玉)
事務局長：黒澤友彦 (山梨県小菅村)

伝統知顧問：守屋秋子 (小菅村)、岡部良雄 (丹波山村)

~~~~~

## 編集子の独り言：

いよいよ、何かと病名を付けられて、急に老化を自覚するようになりました。もう満員電車には乗れません。若者に押しつぶされるからです。日本人の大学生は老人に席を替わるどころか、押しのけて座ります。このところ、厚意に甘えられたのは外国人旅行者のみからです。そこで、朝は嫌っていたグリーン車に、高尾まで乗ることにしました。一方で、猿橋からのバスはほとんど乗客がいません。往復6時間の通勤で、小菅での作業時間は約4時間です。何もない倉庫なので、今は熱中症になりそうです。かなり苦痛なので、先行きはわかりませんから、できるだけ資料整理を進めます。自選集の推敲もしたいですが、draftでホームページ公開しているのは、僕はいつまで働けるのかわからないからです。

## 写真：

六義園門前のアンパンマン



六義園内



西川文庫の配架替え。聖なる植物 ハス（仏教）、ユリ（キリスト教）



野川に生えるハルシャギクの大群落